

# 一般財団法人全国落花生協会の 37年間の歩みを振り返って (第1回)

一般財団法人全国落花生協会

一般財団法人全国落花生協会（理事長:根本実）は、令和8年3月31日をもって解散いたしました。

当協会は、平成元年11月1日に、財団法人全国落花生協会として発足し、平成25年に一般財団法人全国落花生協会への移行を経て、解散まで37年間にわたり、落花生・ピーナッツの生産、流通、加工、消費等の振興に取り組んできたところです。

本稿では、設立以来37年間にわたる歩みを、

- ①財団法人全国落花生協会設立頃の落花生を巡る状況、協会設立に向けた動き
- ②落花生・ピーナッツの流通、加工、販売を巡る動き
- ③ピーナッツの貿易を巡る国際情勢、輸入制度や輸入相手国の変遷等の動き
- ④国内産落花生の生産を巡る動き

の4回に分け、関係者の皆様からご紹介いただきます。

第1回目は、財団法人全国落花生協会設立頃の落花生を巡る状況や協会設立に向けた動きについて、平成元年当協会発足当時、農林水産省農蚕園芸局畑作振興課豆類班担当課長補佐としてご尽力された小栗邦夫氏（現在、公益財団法人日本農林漁業振興会常務理事）からご紹介いただきます。

## ●財団法人全国落花生協会の設立頃の思い出

私は、平成元年7月から5年3月まで、当時、農林水産省農蚕園芸局畑作振興課の豆類班担当の課長補佐、いわゆる豆類班長を務めました。

当時、落花生を取り巻く環境は、日米の貿易交渉の対象品目として厳しい局面を迎えていました。昭和61年にガット12品目のパネル裁定により、多くの品目の輸入制限が不当と裁定される中で、落花生と雑豆については、国内生産調整実施により輸入制限の正当性を主張したものの、適正な輸入量割合の証明ができず、いわゆる灰色の裁定となっていました。その後、昭和63年8月には、日米間で、最低輸入枠の拡大などが合意されていました。

私が着任後、具体的な輸入枠の拡大のため、同じく自由化を拒否したでんぷん、乳製品の担当者とともに何度か米国に出張し交渉しました。その結果、

平成4年9月には、最低輸入枠7.5万トンとすることで、ようやく合意されました。

並行して、ガットウルグアイラウンド交渉は、昭和61年から平成元年を合意目標に進められていましたが、交渉は難航し、私の豆類班長の在任も延び延びになっていきました。最終的に合意されたのは、平成5年、私が新潟県に出向した後となり、全ての農産物の関税化とミニマムアクセスの導入が決まりました。(合意受け入れに当たって、当時の細川総理大臣の深夜のコメ輸入受け入れ発表を、新潟県庁で徹夜しながら聴いていたことをよく覚えています。)

これにより、落花生は輸入割当制度から関税割当制度に移行し、割当枠外の2次税率の水準をどうするかが、重要な検討課題でありました。

この間、米国ではアメリカンピーナッツ協会が米国政府に様々な要請をなされており、米国側の強い姿勢のバックボーンとなっていることを痛感しました。このため、国内においても、落花生関係者の意向を集約して行動していくべく体制強化が求められ、新たな組織の設立の機運が高まってきました。

同じ豆類の小豆、いんげん豆などのいわゆる雑豆については、すでに、輸入割当制度の円滑な運用、国産豆類の振興のため、雑豆輸入基金協会と日本豆類基金協会が設立され、運営されていました。落花生のついても、同様な組織の必要性が検討されてきた経緯もありました。

このため、業界関係者の意向を踏まえ、関係各団体の協力をお願いしながら、具体化が進められていきました。

特に、公益財団の設立にあたっては、基本財産3億円以上が求められたので、寄付金を広くお願いする必要がある、関係団体の代表者に団体内の意思統一をお願いしました。

生産者側の出山弘全国落花生協会会長(千葉県経済連・成田市農協組合長)、実需者側の日本煎豆落花生協同組合連合会の赤坂英重理事長(赤坂屋)、全国落花生豆菓子協同組合連合会理事長の染谷誠一理事長(幸月堂製菓)、全国バターピーナッツ加工協同組合の瀧下繁理事長と、輸入商社側の大粒種落花生商社協議会の澤野進理事長(東邦物産)、小粒種落花生輸入商社協議会の砂山裕理事長(東食)には、各団体内の意向の取りまとめに大変ご尽力いただいた結果、平成元年11月に、財団法人全国落花生協会が設立されました。

また、各団体の代表者以外にも、金澤茂氏（日煎連副理事長）、長谷川芳雄氏（出由本店）、池辺恒雄氏（池辺食品）、上原久旺氏（川越屋）、鈴木伝四郎氏（でん六）、田畑繁氏（タバタ）、有馬英夫氏（有馬芳香堂）、田村正雄氏（田村商店）、竹村秀毅氏（マメシン）、櫛田昌弘氏、吉田一郎氏（吉田ピーナツ）などの皆様に大変お世話になりました。

すでに他界された方が多いと思いますが、改めて感謝申し上げます。

近年は、一般財団法人全国落花生協会の評議員として、各種の会合に参加させていただいてきました。中でも、毎年秋の作況調査及び需給懇談会は、豆類班長時代は、忙しさにかまけて一度も参加できませんでしたが、今になって参加できたことに、感慨深いものがあります。

協会は解散されても、多くの関係者の方々が引き続き落花生業界を盛り上げていていただくことをお願いいたします。

（参考）一般財団法人（財団法人）全国落花生協会歴代理事長

役職	氏名	所属	在職期間
財団法人 全国落花生協会理事長	出山 弘	成田市農業協働組合 組合長	平成元年～平成5年
	谷 旬	成田市農業協働組合 組合長	平成5年～平成17年
	根本 実	富里市農業協働組合 代表理事組合長	平成17年～平成25年
一般財団法人 全国落花生協会理事長	根本 実	富里市農業協働組合 代表理事組合長	平成25年～令和8年